

## 編集後記

長年の夢であった大学教育機能開発センター紀要の刊行が実現し、第1号を発刊することができました。

これまで大学教育機能開発センターには紀要がなかったため、センター教員は、研究・教育活動の発表の場が少なく審査制のある学会誌、または学内の学部紀要に共著として論文を載せる等、その発表の場は限られていました。しかし今年度、紀要の第1号が発刊できたことで、今後センター教員は自分たちの研究・教育活動の成果を論文として自由に発表できるようになりました。また、センター教員の担当科目や専門は、外国語、情報、健康・スポーツ、FDと多様ですが、紀要の刊行により、私たちは教育改革やFD活動に対して、共通の土俵を持つことができるようになりました。

橋本センター長のご提案を受け、まず大学教育機能開発センターに紀要作成の検討ワーキングが設けられました。さらにその審議内容を受けて、2009年6月に5名のセンター教員からなる紀要編集委員会を立ち上げました。紀要編集委員会では、九州地区や関西地区で刊行されているセンター紀要や学会誌を調査し、「長崎大学大学教育機能開発センター紀要投稿規程」および「紀要執筆要領」を作成し、2009年度の紀要発刊にむけてスタートしました。ゼロからの紀要作成ということで、何度も会議をかさね、会議の回数は14回にのぼりました。今回センターの教員から、10編の論文の投稿があり、第1号はかなり充実した内容となりました。

なお、センターの紀要作成に関して、紀要編集委員会では、紀要の質を高める目的で、希望する投稿者の論文に対しては審査制（査読付き）を採用しました。査読者は、九州地区の国立大学の専任教員を中心に、私立大学の専任教員や国立研究センターの専任研究員など、その分野の一流の専門家に依頼しました。審査方法も、研究の独創性、論文構成の妥当性、研究方法の適切さ、論文としての記述や表現の適切さなどの面からを、5つの基準のLikert Scaleを用いて行うという厳しいものを採用しました。また、1つの論文に対して査読委員を複数名依頼し、多くのかたがたのご意見を伺うようにいたしました。第1号では3編の査読付き論文の申し込みがありましたが、2編が査読に合格いたしました。査読にご協力いただきました先生方には、この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

また、本紀要では論文に加えて、年度内に行なった事業報告を、全学教育研究部門、評価FD研究部門、教育指導支援システム研究開発部門の3部門別に掲載しました。このことにより、センターでの活動をさらに学内外に大きく発信することもできるようになりました。

今後、大学教育機能開発センターにおいて紀要は、毎年年度末の3月に刊行されていくこととなります。このたび第1号を発刊することができましたが、今後はさらに内容の充実したものをめざして努力したいと考えています。

最後になりましたが、紀要の発刊に関して、ご尽力いただきました橋本センター長やセンター職員のみなさま、多くの論文を投稿していただきましたセンターの教員のかたがた、編集作業に取り組んでいただいた編集委員のみなさまに、心から感謝申し上げます。

2010年3月1日

編集委員長 小笠原 真司